教育事業名	**平成 27 年度　国立室戸青少年自然の家教育事業** 日本列島ともだちの輪　夏編
事業の趣旨	お互いに異なる地域の子どもたちが交流し、生活習慣や自然環境等の違いを体験することで、ともだちの輪を広げ、郷土の良さを再認識するとともに、他者を尊重する気持ちを育むことをねらいとする。
対象者	小学生（5・6 年）・中学生（1・2 年）
実施期間	平成 27 年　8 月 17 日（月）～平成 27 年　8 月 20 日（木）3 泊 4 日
参加者 **（人数／定員）**	32 名／30 名

活動プログラム

8 月 17 日（月）	8 月 18 日（火）	8 月 19 日（水）	8 月 20 日(木)
14：00 高知参加者着 14：30 アイスブレイキング 16：00 丹波参加者着 16：15 開講式 16：45 仲間作り 17：45 夕食 18：30 室戸の海のスライドショー 20：10 入浴 21：20 班会 22：00 消灯・就寝	7：15 朝のつどい 7：30 朝食 9：00 海の活動① A:オーシャンカヤック B:スノーケリング 12：00 昼食（お弁当） 13：00 海の活動② A:スノーケリング B:オーシャンカヤック 17：30 夕べのつどい 17：45 夕食 18：45 レクリエーション 20：10 入浴 21：20 班会 22：00 消灯・就寝	7：15 朝のつどい 7：30 朝食 8：15 記念撮影・移動 9：00 室戸世界ジオパークセンター見学 10：00 スジアオノリ収穫体験 ジオパークフォトビンゴ 12：30 昼食（お弁当） 移動 14：30 歌の練習・班会 16：00 カツオのたたき作り体験 18：00 お別れパーティ 感想発表 20：10 入浴・荷物整理 21：20 班会 22：00 消灯・就寝	7：15 朝のつどい 7：30　朝食 8：45 感想 アンケート 記入 9：30　閉講式 10：00 丹波参加者出発 高知参加者出発

活動の様子

8 月 17 日　月曜日（１日目）

高知県の参加者 32 名は元気に到着後、「土佐弁かるた」でアイスブレイキング。このときの表情はまだ硬かったが、丹波参加者を乗せたバスが見えたときには歓声があがり、皆笑顔で出迎えた。開講式後の仲間作りを目的としたレクリエーションでは、ボランティアリーダーの用意したゲームで交流し、班内での緊張を少しずつほぐすことができた。

夕食後は、自然の家の釼物指導員が、自ら撮影した海中のスライドを上映し、室戸の海について話してくれた。珍しい魚の写真や夜間の魚の様子を見るだけでなく、捨てられたゴミや海の汚れなど、我々が直面している環境問題についても考えることができた。そして、2 日目の

海の活動につなげることができた。

8 月 18 日（火）（2 日目）

2 日目は海の活動。曇り空で波もあり、残念ながら前日のスライドで見たような青い海の中でたくさんの魚を見ることはできなかったが、室戸岬新港内でのオーシャンカヤック、スノーケリングを実施することができた。オーシャンカヤックでは、最初なかなかバディ同士の息が合わず、思ったように前に進むことができない艇が多かったが、後の方ではバディで「右、左」と声を出し、パドルの動きを合わせてスムーズに進むことができた。スノーケリングは予定していた活動場所に入れなかったため港内での実施となり、透明度も悪かったが、丹波の参加者からも、「きれいな海で、ヒトデやハリセンボン、チョウチョウウオなどを見ることができてよかった。」などの感想が多く見られた。バディで行動するカヤックやスノーケリングをきっかけに、初めての友だちとのつながりを感じたり、協力することの大切さを実感できたりした参加者が多かったことは、単に海の活動を体験するだけでなく、この事業のねらいに近づくことができたと感じている。夜はレクリエーションで班内の交流をさらに深めることができた。

8 月 19 日（水）（3 日目）

朝、おそろいのＴシャツを着て記念撮影。参加者、ボランティアリーダー、職員の気持ちが一つになったような、一体感を感じた。室戸世界ジオパークセンターで、室戸の大地の成り立ちや文化、人々の営みを学習した後、室戸海洋深層水で養殖しているスジアオノリの収穫体験と、室戸岬遊歩道でジオパークフォトビンゴを行った。高岡漁協では、水深 300m以上の深海からくみ上げる栄養豊富な海洋深層水で育ったアオノリを収穫し、水洗いして脱水した後、広げて乾燥させた。また、プチ藻（スジアオノリの赤ちゃん）を注射器で取って瓶につめた。持ち帰って自分で育てられるとあって、参加者が楽しみながら作業する姿が見られた。室戸岬では、ジオパークセンターで学んだことを自分の目で確かめながら、ボランティアリーダーの作成したジオパークフォトビンゴに班で取り組んだ。クイズ形式になっており、班で意見を出し合いながら協力することができた。そして、灯台と中岡慎太郎像の見える岬の先端の芝生の上で、班で輪になりお弁当を食べた。

夕方にはカツオのたたき作り体験。指導員さんの見事なさばき方や炎をあげる藁で豪快に焼く様子を見せてもらった後、各班がまるまる太ったカツオ 1 匹に取り組んだ。高知県内から来た参加者も、まるごとの魚をおろした経験のある者はほとんどおらず、しりごみしたり、包丁を持って少しずつ慎重に作業したり様々だったが、魚をおろす、焼く、薬味の野菜を切るなどの係を分担し、班でにぎやかに会話しながら進めていった。焼くために用意した藁もめずらしいのか、焼く順番を待つ間、藁を使って楽しそうに遊ぶ姿が印象的だった。予定よりも時間はかかったが各班それぞれが皿鉢にもりつけ、見た目も上等の料理が出来上がった。

	食堂でのお別れパーティは、特別メニューに自分たちが作ったカツオのたたきが加わり、豪華な夕食となった。どの班も笑顔で会話を楽しみながら食べていた。初日、2 日目と表情の硬かった子、友だちの輪の中になかなか入れず、しんどい思いをしていた子たちが、明るい表情で一緒に食べている様子も見られた。食後の感想発表会では、スライドショーで 3 日間を振り返った後、班ごとに前に出て、一人ひとりが一番の思い出や嬉しかったことを自分の言葉で伝えることができ、短期間の事業ではあったが、参加者の成長を感じた。また、小学生の時からずっと参加している中学 2 年生が、思いをこめて、「丹波で会いましょう。」と言ったときは大きな拍手に包まれた。 8 月 20 日（木）（4 日目） 最終日。みんなで協力して宿泊棟の掃除や寝具の片付けを行った後、集会室に移動して感想文を書いたりアンケート用紙に記入したりした。閉講式の後、お土産（写真・手作りのキーホルダー・前日収穫したアオノリとプチ藻）をもらって、バスが出る正面広場に移動した。まず、高知の参加者・ボランティアリーダー・職員が並び、丹波の参加者がハイタッチや握手をしながらバスに乗り込んだ。お互いに笑顔で話したり丹波での再会を誓ったりする様子を見て、冬編でこの子たちが再会できた時の顔を見ることが本当に楽しみだと思った。
事業の成果	・遠く離れた地域で育った参加者同士が、班やバディでの活動を通して、互いに協力し合い、親しくなることができた。冬編につながる成果が得られたと感じる。 ・他者と上手にコミュニケーションをとることができず、個別の支援を必要とする参加者が 3 名いたが、徐々に心がほぐれ、周りの友だちの優しい言葉掛けもあって、3 日目には 3 名とも笑顔で集団の中に入っていた。最終日「冬も楽しみです」という感想を見て、その子たちの中で、何か克服でき、一歩進むことができたのではないかと思った。「友だちをつくりたい」という気持ちで参加していた 3 名は、この事業での経験を次の別の場面で活かしてくれるのでは、と期待している。
事業の課題	・活動が毎年同じような内容になっていることから、今年は時期をずらし、室戸の大地や風土、食文化を一緒に体験することで友だちの輪を広げ、交流を深めることを目的とした。しかし、今後もこの事業を続け、ねらいを達成するためには、丹波少年自然の家との連携を深め、より有効な活動を絞って計画、実施するとともに、一人ひとりが自分のめあてを持って臨むような働きかけが必要だと感じた。 ・今回、さまざまな課題をかかえた参加者がいて、時には集団から離し、個に応じた対応が必要だった。「この事業をきっかけにしたい」という本人・保護者の強い思いや、不安な気持ちを考えると、我々に向けられた期待の大きさや責任の重さを痛感した。今後、このようなケースが増えてくると予想されることから、参加決定後、状況を保護者から詳しく聞き、連携するとともに、事業に携わる職員やボランティアリーダーは予想される対応などについて綿密な打ち合わせをし、共通理解を図っておかなければならない。
参加者の感想	・ぼくは 1 日目に丹波の子と会う時とても緊張したけれど、仲良くなれたのでよかったです。その後ゲームをして、もっと仲良くなれたのでよかったです。2 日目のスノーケリングではいろいろな魚が見られて、とてもきれいに感じました。オーシャンカヤックではバディと協力し

	て自分たちの思う方向にこぐことができて楽しかったです。3 日目はジオパークに行って、ビンゴを協力して解くことができたのでよかったです。カツオのたたき体験でも、それぞれ係を分担して、カツオをさばいたり、作ったり、洗ったりして協力できたと思いました。この 4 日間いろいろしたけど、協力することもできてとても楽しかったです。 ・私はこの「日本列島ともだちの輪（夏編）」に参加し、知らない友だちと会うのはとても緊張しました。4 日間で楽しかったことは、やはり 2 日目のオーシャンカヤックです。バディと「右、左…」と言いながらパドルをこぎました。一番うれしかったことは友だちが増えたことです。このまま冬編もがんばって、友だちをいっぱいつくろうと思います。リーダーの皆さん、ありがとうございました。 ・ぼくはこの企画は 2 回目だったけど、室戸でやる夏編は初めてだったので、少し緊張していました。（友だちができるかな）（みんなの足をひっぱらないかな）（活動がうまくできるかな）と不安なところばかりだったけど、2 日目ぐらいから男女問わず話をして、とても仲良く 4 日間を過ごしました。この最高の班とまた冬編で会うのが楽しみです。 ・私は「スキーしたい」と思い、この企画に参加しました。私は人見知りがひどく、心配していました。でも実際来てみると、みんなやさしくしてくれて安心できました。リーダーさんもみんなのために楽しいことを考えてくれて、すごくうれしかったです。関西弁が少しうつり、土佐弁が少しうつり、少しずつ話が分かってきて話すのがだんだん楽しくなってきました。リーダーさん、また冬もよろしくお願いします。班のお友だち、また冬に丹波で！ ・去年が台風でなくなって今年最後だから、精一杯楽しもうと思ってがんばった。いつもいた友だちがいなくて心配だったけど、新しい友だちができてよかった。班発表前のスライドショーを見て、子ども側で参加できる夏編は最後なんだと改めて思ったら涙が出た。（書いている今も泣きそうになる。）大学生になれたらリーダーしたい。最後の夜はみんなで話をした。冬はスキー、中級でがんばろうと思う。同じ人にまた、班リーダーをしてほしい。